



# 【令和5年度災害対処訓練】

令和5年11月25日

令和5年11月25日（土）自衛隊札幌病院（病院長：鈴木陸将）は、道央地域（札幌地区）における大規模地震（直下型地震）を想定し令和5年度災害対処訓練を実施した。統裁官（病院長）は訓練の開始に当たり、「組織力の結集」及び「安全管理・感染管理の徹底」の2点を要望し、「各種初動対処要領及び各種計画の実効性について検証し、上級部隊と共に自治体等との「連携を強化」させ、病院の即応性を含めた能力向上を図り事態発生時における即応性を含めた能力の向上を図り、より地域に貢献できるよう、有意義な訓練を実施することを期待する。」と訓示した。

前段訓練は7時30分に札幌地区において、月寒断層を震源とする最大震度7の地震発生状況付与から開始され第3種非常勤務態勢に移行、7時55分の病院の態勢は近傍居住者が逐次自主登庁し、営内者が当直室前に集合した状況から開始され、部隊当直司令が営内者に各種指示を実施、病院職員は登庁後、速やかに指揮所を開設、職員の被害状況の把握及び被災者等の受入れを第一義とした所要の準備を実施した。その後、初動部隊（自衛隊札幌病院救護班）が北部方面衛生隊と連携して支援態勢を整えた。今回は、子弟預かり所への受入要領、北部方面通信群の支援を受けたAM通信機等による通信手段の確保等を加えた新たな取り組みを実施した。後段訓練では災害翌日の場面を想定し、病院への大量傷者受入れ要領について演練し、札幌市災害時基幹病院としての役割を再確認した。併せて、北海道DMATが院内に札幌南SCU（広域医療搬送拠点）を開設して災害地域への患者後送拠点を提供し、地域医療への貢献要領について一案を得た。

また、北部方面総監（末吉陸将）の訓練視察を受け、病院の今後の課題等についてご指導を賜った。本訓練において事業継続計画の実効性向上、初動態勢の早期確立及び関係機関との連携の重要性を再認識し訓練を終了した。



当直による人員掌握及び指示



病院救護班の派遣準備



演病院長（蝶野 1 佐）への派遣準備完了報告



大量傷者の受入（1Fエントランス）



DMATとの連携



北部方面総監視察（子弟預り所）